

# ニュージーランドへ行ってきました！〜平成27年度中学生海外派遣事業報告〜



優しいホストファザーと

NZのみんなと一緒に勉強

ホットスプリングにて記念写真

中学校に泊まりました

## 17日(月)NZへ出発

早朝佐賀庁舎に集合。壮行式で生徒代表の武内妃華さんが決意表明を述べた後、家族に見送られ高知龍馬空港へ。羽田空港からリムジンバスで成田空港へ移動。先にNZへ渡っていたALITのライアンからNZは例年になく寒いとの情報が入りました。初めての出国手続きを済ませ、いよいよオークランドへ向け出発です。

## 19日(水)フェアフィールド中学校へ

午前中ロトルア市内のアクロドームで羊の毛刈りショーなどを見学した後、ハミルトン市へ。  
午後3時30分フェアフィールド中学校へ到着。ホストファミリーと対面後、それぞれがホームステイ先へ。いよいよこれから期待と不安のホームステイが始まります。

## 21日(金)学校訪問2日目 全校集会での発表

ハミルトン3日目の朝は冷え込み、最低気温が0度まで下がりました。今日は体育の授業とマオリの伝統的なハフケケ(籠)作りに挑戦しました。全校集会では大方中学校の武内妃華さんの生徒代表あいさつの後、黒潮町の紹介を各自が英語でスピーチ

## 18日(火)オークランドからロトルアへ

約10時間の空の旅の後、現地時間の午前8時過ぎにオークランド空港に到着。空港内でNZドルに換金後、入国手続きを済ませ専用バスでロトルアに向かいます。昼食は途中のマタマタの町で。生徒ははじめてNZドルでの買い物体験しました。  
午後はロトルア市内のレインボースプリングスと先住民族のマオリ村を見学。時々小雨が降り、気温は12度ほどしかありません。ロトルアは地熱活動が盛んなことで知られ、多くの間欠泉がありますが、ちょうどタイミングよく30メートルほどの迫力のある吹き上がりを見ることができました。

## 20日(木)学校訪問1日目 陶芸体験

生徒たちがホストファミリーとともに元気に登校してきます。みんな表情も明るく元気なのでひと安心です。  
午前中は近くの窯元で陶芸教室に参加。陶器にNZ独特の絵などの思い思いのデザインを施し、着色すれば作品が完成です。  
午後はマオリ式の伝統の歓迎の儀式に参加しました。式では大方中学校の秋田桜さんが、NZで学びたいことや、体験したいことなどを英語でスピーチしました。

今年度の中学生海外派遣事業を、8月17日から27日の間、生徒12人、引率者4人により実施しました。派遣先は例年どおりニュージーランド(以下、NZ)のフェアフィールド中学校です。派遣団は選考試験で選ばれた佐賀中学校5人、大方中学校7人の生徒と、引率者として教育長、佐賀中学校から谷校長、大方中学校から岡山教諭、ALITのライアンの計16人です。  
行程は、6泊7日のホームステイと、その前後にロトルアとオークランドの市内観光を盛り込んだ11日間です。  
主体となるホームステイは、長年交流のあるフェアフィールド中学校に在籍する生徒宅に1人ずつステイ(今回は2組の2人ステイあり)し、学校に通いながら、英語や生活習慣などの異国文化に触れ、交流を深めるというプログラムです。  
フェアフィールド中学校のあるハミルトン市は、NZの北島に位置し、人口約17万人でNZでは4番目に大きな町です。市の郊外にあるフェアフィールド中学校は全校生徒約750人で、20カ国を超える国から数多くの留学生を受け入れている国際性豊かな学校です。敷地内には平屋建ての教室が何棟も建ち並び、広々とした校庭は青々とした芝生に覆われており、自然に恵まれた落ち着いた環境の学校です。そうした環境の中で、ほとんどの生徒たちが裸足で走り回っています。  
学習カリキュラムの中に、英語を母国語としない異国文化の学習が組み込まれており、全校集会でその学習成果を発表する機会が設けられるなど、



マオリの伝統文化にふれました



お別れのとき...



フェアフィールドのみんなど



とても仲良くなりました

し、最後によさこい囃子踊りを披露しました。700人を超える生徒の前でも一人ひとりが萎縮せず、しっかりと発表できました。  
夜は学校でホストファミリーと一緒の交流パーティです。ホームステイ先の家族が大勢集まり、手作りの料理を囲んで楽しいひと時を過ごすことができました。  
生徒たちはこの夜マオリ族の集会所をかたどった建物へ泊まり、交流を深めました。

**25日(火)オークランドへ**

学校出発の日ですが、朝からあいにくの雨となりました。ホストファミリーとはここで別れです。生徒たちの中には、涙している生徒もいました。別れを惜しみつつオークランドへ。  
オークランドでは、博物館やオークランドのシンボルであるスカイタワーを見学後、生徒たちは待ちに待ったショッピング。

**26日(水)オークランドから成田空港へ**

午前5時45分にホテルを出発。まだ暗いオークランドの町を空港へ移動。それぞれの思い出を胸に、オークランドから日本へ向け飛び立ちました。夕方成田空港へ到着。夜はホテル内のレストランで久しぶりの日本食でした。

**22日(土)〜23日(日)ホストファミリーと**

生徒はホストファミリーと自由行動です。2日間は他の生徒や引率者と離れるため、常に自分の英語力だけが頼りです。幸い2日間とも天気に恵まれ、ホストファミリーと牧場や海辺へ行ったりショッピングをしたりと、思い思いに自由な時間を楽しんだようです。

**24日(月)学校訪問3日 演劇の鑑賞と授業**

いよいよ学校での最後の交流日です。午前中はフェアフィールド中学校の生徒による演劇を鑑賞しました。近隣の小学校から集まった児童たちの前で、どの生徒も大きな声で、堂々とした素晴らしい演技でした。国民性や文化の違いによるものだと思いますが、自分をアピールする力に優れており、生徒たちも演技に圧倒された様子でした。  
午後は各自が授業に参加。その後、マオリ式のお別れ式が行なわれ、バリー・ロバーツ校長先生から一人ひとりが修了証書を受け取りました。

**27日(木)成田から黒潮町へ**

成田からバスで羽田空港に移動し、高知龍馬空港へ。町バスで黒潮町へ向かいました。午後3時に黒潮町へ到着、佐賀中学校の今村琳花さんの感謝の言葉で11日間の研修を終えました。



生徒の学習意欲の向上につながるような取り組みが行なわれているのも特徴です。

フェアフィールド中学校の生徒たちは普段から外国文化に触れ合っているため、私たちにも気軽に接してくれるので、生徒もすぐに学校に溶け込むことができました。前回派遣団として参加した3年前と比べ、学校側の受け入れ態勢、特に生徒の体験メニューがより充実したものになっていました。これは受け入れを担当している、ローレン先生と、ラー先生の尽力と、フェアフィールド中学校からの訪問団の来町が再開し、互いの交流がより深まっているためだと考えています。

生徒たちにとってはホームステイ中心のこの派遣事業は、けっして楽しいだけのものではなかつたはず。異国の文化の中に身を置き、ホームステイでは英語だけの時間の中で、自分自身がどうすべきかを真剣に考え行動したはず。

また、異国文化に触れさまざまな体験をすることにより、改めて日本の良さについて考えることができました。何よりも、人と人とのふれあいの中で、多くのことを学んだはず。今回のこの体験が生徒一人ひとりの大きな自信となり、今後の中学校生活やその後の人生に必ず役立つものと思っています。

私自身この海外派遣事業で、改めて日本との教育システムの違いを感じました。生徒には自由でのびのびとした中にも規律があり、教職員にはゆとりが感じられました。日本の学校現場とは基本的に異なる部分が多くありましたが、今回の派遣事業を通して得られたことを、今後の教育行政に少しでも生かしていければと考えています。

(NZ派遣団長・教育長坂本 勝)

**佐賀中学校 今村 琳花**

私はニュージーランドに行ってマオリ族の人たちがいれずみをしていたり、あいさつの仕方が違うことなどマオリ族の人たちについて知ることができたし、マオリ族以外の人たちもマオリ族の人たちを大切にしているいいことだと思いました。

ご飯も量がたくさんで味もおいしくてうれしかったです。

違う言葉話す人と関わることで、会話をするのに大切なのは言葉じゃなくて気持ちだということや、何かを大切にすることはいいことだと改めて感じました。この研修を通して、これからもっといろんなことに挑戦してたくさんの人と関わって、いろんなことを学びたいと思いました。

こんないいきかいは他にないと思うので、たくさんの人にニュージーランドに行っているいろんなことを学んでもらいたいです。

**佐賀中学校 矢野 花恋**

私がNZに行って日本との文化の違いを感じたのは、NZの人のフレンドリーさです。

学校訪問のとき、生徒の人たちが「Hi!」「こんにちは」など声をかけてくれました。なかには、日本語でこの言葉は何というのかなど、すごく日本に関心を持ってくれる人がいてうれしかったです。今まで私は、自分からそんな風に声をかけたことはなかったし、声をかけられたこともなくてびっくりしました。

だから、私はその文化を知り、ホームステイ先の人と遊びに行ったとき自分から声をかけられました。私はすごく人見知りだったのにこの研修を終えて積極的になれたと思います。

他にも英語の発音や聞き取りもできるようになったと思います。

この研修を終えて得ることはたくさんあると思うので、この研修でNZに行けて本当に良かったです。

**大方中学校 森 遥都**

僕がNZ研修に行って1番印象に残ったことは、NZの人々の人柄です。NZの人々の人柄は、知らない人たちにも気さくにあいさつをしてくれて、笑顔で話してくれるような人柄です。道路でも、信号が無い円形の交差点で、円滑に進められる程に譲り合いの精神があり、優しい人たちだということがわかります。学校に行っても、教室に行くまでもあいさつをしてくれて、「よろしく」と言ってくれたり、案内をしてくれることがありました。教室内では、どこに座れば良いかを教えてくれたり、パソコンの使い方を教えてくれて、どんな物が好きか、などを聞いて来てくれて、休み時間には、遊びに誘ってくれるなど、友好的で気さくな良い人たちでした。

NZの人たちは、あまりよく知らない人にも優しく話してくれる良い人たちで、遊びにも誘ってくれる人でした。だから、将来は外国の人々と関わることをしたいと思いました。

**佐賀中学校 明神 萌花**

NZに行くのは、はじめは少しこわかったけど、行ってみるとけしきは日本とにいて安心しました。私が好きな羊がたくさんいたし、食べものもきらいと思うものはありませんでした。

NZの人は、積極的で、とても優しくかったです。だからすぐに仲よくなれるし、遊んだりして楽しかったです。

観光ですごいと思ったのはマオリ族のショーです。ポイを使ったダンスがすごいきれいできれいでした。いかくの顔はみんなこわいけど笑うとみんなかわいかったです。

ホームステイ先では、ゲームをしたり、トランプをしたりしてすご楽しかったです。お母さんが作ったごはんは、ぜんぶ私が好きなもので、おいしかったです。わかる時は悲しかったけど、それだけ、楽しい思い出ができたので良かったです。将来、NZで住めるように、英語を勉強していきたいです。

**佐賀中学校 森田 菜月**

私がニュージーランドに行って1番思ったことは自然がとっても豊かということと、人がとてもやさしいなと思いました。牧場がたくさんあって、そこではたくさんの牛や羊がいて、私は牧場が見えるたびに羊が何匹いるかとか数えてしまいました。私たちと初めて会うのにハイタッチをしてくれたり、「Hi!!」と声をかけてくれたりしました。私がステイしていたとこの人も休日はいろんなところにつれて行ってくれたり、おいしいご飯を作ってくれたり、私たちの英語を一生懸命ききとろうとしてくれました。すごく嬉しかったです。この人たちと会えて良かったと思いました。別れの時はとても寂しくて涙が出そうになりました。ニュージーランドに行けて、たくさんの人と出会うことができるとても良かったです。日本にニュージーランドの人がくる時はたくさんの場所に行きたいし、来て良かったと思ってもらえるようにしたいです。

**佐賀中学校 永野 麻尋**

私はニュージーランドへ行って、ニュージーランドの文化や生活について学んできました。ホストファミリーと一緒に暮らして、日本とは違う海外の生活を実際に体験することができました。その中でニュージーランドの素晴らしさはもちろん、日本の良さや毎日の生活のありがたさにも気づくことができました。また、日本の文化も伝えようと思っていたので、いただきますやごちそうさまのことを言いました。すると次の食事から日本語で言ってくれたので嬉しかったです。

ホストファミリーと一緒に過ごして、食べ物や食事が違ったりしたけど、犬の散歩をしたり一緒にゲームをしたりして日本とあまり変わらないなと思いました。日本とニュージーランドの生活は一緒だと思いました。楽しもうと思えば楽しめることがわかりました。次にニュージーランドへ行く時は、英語力を上げてたくさん話したいです。

### 大方中学校 土居 優奈

私にとってこの11日間の研修は、一生忘れられない、とても貴重な体験となりました。

中でも1番の思い出はホームステイです。ホストファミリーのみんなはとても優しく、おかげで緊張もすぐに解けました。英語での会話にも積極的に挑戦しようとする、みんな精一杯理解しようとしてくれて、私に話す時も、分かりやすいように工夫してくれて助かりました。NZの中学校に通うと、生徒たちはみんなフレンドリーで、よく声をかけてくれてうれしかったです。

研修を通して、NZの文化や習慣を肌で感じ、日本との違いをたくさんみつけることができました。これを日本の家族や友達など多くの人に伝えていきたいです。そして改めて学んだのは、今の英語力ではまだまだ通じないということです。これからは、今まで以上にしっかり英語を勉強していきたいです。将来、もっと英語を話せるようになったら、また必ずNZに行きたいと思います。

### 大方中学校 金子 朋華

NZ語学研修では、日本では体験できないような素晴らしい体験ができた。

私は羊に触ることもNZに行く楽しみの1つとしていた。私が想像する羊毛の感触は綿菓子のようにフワフワしていたが、実際の感触は、ベタベタしていた。でも、そのベタつきは私たちの肌に良いみたいで私はもっと羊のことが好きになった。この羊の感触が1番の衝撃だった。語学研修で1番心に残っているのはホームステイだ。私たちにやさしく接してくれたホストファミリーには感謝している。私は英語を聞き取ることが苦手だった。だから会話ができるときは嬉しくてしかたなかった。もっと英語を勉強して話せるようになりたいと思った。9歳の女の子には折り紙を気に入ってもらえて良かった。今度はNZの生徒が私たちの町に来る。NZの良さを私に伝えてくれたように、次は私が日本の良さを伝えたい。

### 大方中学校 武内 妃華

今回の研修で学んだことの1つ目は、自分で考えて行動することです。空港はとても広かったです。何時にここに集合、と言われてたら、何時にご飯すましてそれから…など勝手に先のことを考え行動がとれるようになっていました。2つ目は、コミュニケーションをとることや人との関わり方です。最初とても心配していた英語も、時間がたつにつれて、だいたい聞きとれるようになり、自分の言いたいことを話せるようになっていました。まだまだ思っていることを全て伝えることはできません。しかし、いつのまにかジェスチャーをしながら話すようになっていました。進歩したなと私は思います。

この2つのことは将来のためになることだと思います。英語も訳せるようになってきて、英語が楽しいと思いました。それに、自分の思っていることを伝えることはとても大切なことだと、研修を通して思いました。1つ成長できました。

### 大方中学校 山元 はな

ホストファミリーやNZの生徒と話していて、英語は文法をあまり知らなくても、伝えようすれば、単語をつなげて何とか伝えられることが分かりました。でも、もっとたくさん英語を勉強すれば、もっとくわしく話せるようになるし、もっともっと話すのが楽しくなってくると思います。私は本当に簡単な英語しか話せません。なので、もっといろいろな単語を知り、いろいろな文法を学んで、次にNZに行ったとき、黒潮町や日本、自分のことをさらにくわしく英語で話せるように、がんばって勉強します。この研修で学んだことを、生活にも、将来にも活かしていきたいです。

### 大方中学校 山崎 媛加

私がこのNZ研修に参加したのは、私と同年代の学生の暮らしを体験したい、将来の夢に近づきたい、という思いからです。

私は、ホームステイや学校訪問を通して、私と同年代の学生は、すごく私たち日本の学生と似ているところが多いように感じました。初めて会った時は、照れくさくて、距離を感じますが、長い時間過ごしていく中で、気付いたらすごく仲良くなっていました。日本の友達も、初めはぎこちなかったのに、今はすごく仲がいい、ということがあります。きっと、これと同じことだと思います。

また、ホームステイ中、教会を訪れました。そこには、親についてきた小さな子どもが多く、一緒にたくさん遊びました。私は将来、国連のユニセフで、外国の子どもたちに勉強を教えに行きたいと思っています。言葉が分からなくても、世界の子も同士似ていることが多く、どこかつながっていることを強く感じました。私の将来の夢に自信が持てました。またNZに行きたいです。本当にありがとうございました。

### 大方中学校 秋田 桜

私にとってこのNZ研修は、とても有意義なものであったと思います。

初めての海外旅行で不安などもたくさんありましたが、それもすべて良い経験になりました。ロトルアやオークランドでの観光はとても楽しかったです。自分たちの目で実際にマオリ文化を見たりNZについて学んだりすることができました。

ホームステイはとても貴重な体験となり、そして一生思い出にのこるものになりました。そしてあらためて日本以外の国の文化に興味を持ち英語を学びたいと思いました。NZにはいろいろな国の人がいて英語で会話していました。日本語がまったくない中で英語でコミュニケーションをとるのは、私にとって難しいことでありながら楽しいことでした。今回の研修で「英語が話せればもっと将来は楽しくなる」ということに確信を持ちました。そのためにこれから日々、英語の勉強に力を入れていきたいです。